

J.LEAGUE NEWS

Vol. **178**
24 Dec. 2010



編集・発行
社団法人 日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想



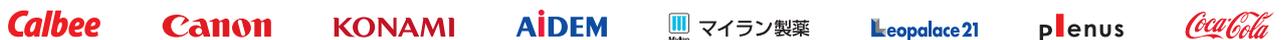
左手に副賞のゴールデンボールトロフィー、右手に同じくアディダスオリジナルガラス製ボール型大皿トロフィーを持つ榑崎

榑崎(名古屋)が最優秀選手賞に輝く

「2010 Jリーグアウォーズ」開催。名古屋の Jリーグ初優勝に貢献し、GKとしては初の受賞

Jリーグの2010シーズンを締めくくる「2010 Jリーグアウォーズ」が、12月6日に東京都内のJCBホールで開催され、各賞が発表された。最優秀選手賞に輝いたのは、名古屋グランパスの Jリーグ初優勝に貢献したGK榑崎正剛。Jリーグの18年の歴史で、GKが同賞を受賞したのは初めてとなった。ベストイレブンにも、名古屋の5選手が名を連ねた。ベストヤングプレーヤー賞には、ガンバ大阪の18歳のMF宇佐美貴史が選ばれた。また、最優秀監督賞は名古屋のストイコビッチ監督が受賞した。一方、リーグ戦は同4日に熱戦の幕を閉じ、J1リーグ戦は前号既報のように名古屋、J2リーグ戦は柏レイソルが優勝を成し遂げた。(2~5ページに関連記事)

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS



J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER



LEAGUE CUP SPONSOR



SUPER CUP SPONSOR



EQUIPMENT SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER





2010 J.LEAGUE™ AWARDS

ベストイレブンに名古屋から5選手

宇佐美 (G大阪) がベストヤングプレーヤー賞に



©J.LEAGUE PHOTOS

ベストイレブンの受賞者。前列左から、マルシオ リシャルデス、中村、藤本、ダニルソン。
中列左から、遠藤、榎崎、横野。後列左から、ケネディ、前田、田中マルクス闘莉王、増川



©J.LEAGUE PHOTOS

得点王のタイトルを分け合った前田(右)とケネディ



©J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグ特命PR部 女子マネージャーの足立梨花さんよりベストヤングプレーヤー賞の表彰を受けた宇佐美



最優秀監督賞を受賞したストイコビッチ
監督が喜びのスピーチ



各賞の発表に先立ち、あいさつ
を述べる大東Jリーグチェアマン

迫力あるバンドの生演奏、2010シーズンを振り返る印象的な映像をバックに、タキシードを身にまとった選手たちが次々とステージ上に姿を現し、待望の祭典が幕を開けた。最後に登場したのは、J1リーグ戦で初優勝を成し遂げた名古屋グランパスの全選手、スタッフ。2010年7月の就任後、初のJリーグアウォーズを迎えた大東和美チェアマンが「今日は、今シーズンのJリーグで活躍した、栄えある賞の受賞者が決定する。お集まりいただいた皆さまと、来シーズンへの期待に胸を膨らませながら、受賞者を心からたたえたい」とあいさつし、各賞の発表に移った。

注目の最優秀選手賞を手にしたのは、J1に初優勝を飾った名古屋のGK榎崎正剛。キャプテンとしてチームをまとめた34歳のベテラ

ンは、リーグ戦の全34試合にフル出場し、最後の砦として守備の安定に貢献した。Jリーグ史上、GKの同賞受賞は初めて。日本代表としても4度のFIFAワールドカップを経験した榎崎は「チームメート、僕を支えてくれた人たちのおかげ。全てのGKの励みになると思う」と、受賞の喜びを語った。名古屋の選手が最優秀選手賞を獲得したのは、名古屋を初優勝に導いたストイコビッチ監督が選手時代に受賞した1995年以来、2度目となった。

最優秀選手賞に先立って発表されたのはベストイレブン。29名の優秀選手賞受賞者(GK2名、フィールドプレーヤー27名)から選出された11名には、榎崎をはじめDFの田中マルクス闘莉王、増川隆洋、MFダニルソン、FWケネディと名古屋の5選手が選ばれた。

初受賞は昨年の5名を上回る6名。名古屋の増川、ダニルソン、ケネディのほか、DF榎野智章(サンフレッチェ広島)、MFのマルシオ リシャルデス(アルビレックス新潟)、藤本淳吾(清水エスパルス)が感激を味わった。一方、MF遠藤保仁(ガンバ大阪)は8年連続8度目の受賞となり、自身の持つJリーグ最多記録を更新。田中マルクス闘莉王も7年連続7度目で続いている。

得点王の表彰を受けたのは、共にリーグ戦で17ゴールをマークしたFWの前田遼一(ジュビロ磐田)、ケネディの二人。両者はベストイレブンにも名を連ねた。2名の選手が得点王となったのは、FWのワシントン(当時は浦和レッズ)、マグノ アウベス(同ガンバ大阪)が獲得した2006年に続き2度目。前田は

Jリーグのシーズンのクライマックスを飾るイベントとして恒例となったJリーグアウォーズは、華やいた雰囲気の中で、熱い戦いの数々に思いをはせ、感動を提供してくれた選手らをたたえる機会。日本サッカー協会(JFA)名誉総裁を務める高円宮妃殿下のご臨席を賜り、同協会の小倉純二会長、Jリーグの大東和美チェアマンをはじめとするサッカー関係者、オフィシャルスポンサーなどのパートナー、メディア、そしてファン・サポーターなどが集い、初冬の華やかな夕べを心行くまで満喫した。

©J.LEAGUE PHOTOS



シーズンのクライマックスを飾るイベントを数多くの人々が見守った

「2010 Jリーグアウォーズ」受賞一覧

最優秀選手賞	榎崎 正剛(名古屋)	
(GK)	榎崎 正剛(名古屋)	
ベストイレブン	田中 マルクス闘莉王(名古屋)／増川 隆洋(名古屋)／横野 智章(広島)	
(DF)	田中 マルクス闘莉王(名古屋)／増川 隆洋(名古屋)／横野 智章(広島)	
(MF)	中村 憲剛(川崎F)／マルシオ リシャルデス(新潟)／藤本 淳吾(清水)／ダニエルソン(名古屋)／遠藤 保仁(G大阪)	
(FW)	前田 遼一(磐田)／ケネディ(名古屋)	
得点王	前田 遼一(磐田)／ケネディ(名古屋)	
ベストヤングプレーヤー賞	宇佐美 貴史(G大阪)	
フェアプレー賞 高円宮杯	サンフレッチェ広島	
フェアプレー賞 (J1)	モンテディオ山形／横浜 F・マリノス	
フェアプレー賞 (J2)	該当クラブなし	フェアプレー個人賞 横野 智章(広島)
最優秀監督賞	ストイコビッチ(名古屋)	
最優秀主審賞	西村 雄一	最優秀副審賞 相楽 亨
Jリーグベストピッチ賞	日産スタジアム／アウトソーシングスタジアム日本平	
功労選手賞／功労賞	該当者なし	最優秀育成クラブ賞 FC東京

©J.LEAGUE PHOTOS



J1優勝の名古屋の監督、選手、スタッフがステージ上に勢ぞろい



©J.LEAGUE PHOTOS

最優秀選手賞のゲストプレゼンターはプロフィギュアスケーターの荒川静香さん



©J.LEAGUE PHOTOS

高円宮妃殿下が広島の大本谷祐一代表取締役社長にフェアプレー賞 高円宮杯を授与



©J.LEAGUE PHOTOS

フェアプレー個人賞の横野はユーモアたっぷりにスピーチ



©J.LEAGUE PHOTOS

J2優勝クラブの紹介も行われ、柏のネルシーニョ監督(右から2人目)と3名の選手が出席



©J.LEAGUE PHOTOS

最優秀育成クラブ賞はFC東京。左は村林裕代表取締役社長

歴代の最優秀選手賞受賞者

1993	FW	三浦 知良(ヴェルディ川崎)
1994	DF	ベレイラ(ヴェルディ川崎)
1995	FW	ストイコビッチ(名古屋グランパスエイト)
1996	MF	ジョルジーニョ(鹿島アントラーズ)
1997	MF	ドゥンガ(ジュビロ磐田)
1998	FW	中山 雅史(ジュビロ磐田)
1999	MF	アレックス(清水エスパルス)※
2000	MF	中村 俊輔(横浜 F・マリノス)
2001	MF	藤田 俊哉(ジュビロ磐田)
2002	FW	高原 直泰(ジュビロ磐田)
2003	FW	エメルソン(浦和レッズ)
2004	DF	中澤 佑二(横浜 F・マリノス)
2005	FW	アラウージョ(ガンバ大阪)
2006	DF	田中 マルクス闘莉王(浦和レッズ)
2007	MF	ボンテ(浦和レッズ)
2008	FW	マルキーニョス(鹿島アントラーズ)
2009	MF	小笠原 満男(鹿島アントラーズ)
2010	GK	榎崎 正剛(名古屋グランパス)

※現在は三都主 アレサンドロ(名古屋グランパス)として登録

「チームメートを生かすプレーと自分自身が点を取るプレーを磨きたい」とさらなる成長を目指し、ケネディは「(このタイトルは)わたしだけのものではなく、チームメートにも捧げたい」と感謝を述べた。

昨シーズンまでの新人王から名称を変更したベストヤングプレーヤー賞を手にしたのは、G大阪の18歳のMF宇佐美貴史。Jリーグにデビューした昨シーズンは3試合に出場し、得点はなかったが、今シーズンは26試合出場、7得点と活躍し、目覚ましい成長を遂げた。今後の日本代表としても期待される逸材は「G大阪にかかわる全ての人々、家族に感謝した

い。来年はこの賞に恥じないようなプレーを続けていきたい」と喜びを口にした。G大阪の選手が同賞を受賞したのは初めて。

フェアプレー賞 高円宮杯は、サンフレッチェ広島が受賞し、高円宮妃殿下より高円宮杯が授けられた。フェアプレー賞(J1)は、モンテディオ山形が2年連続、横浜 F・マリノスが初の受賞。フェアプレー個人賞に選ばれたのも広島の横野で、ユーモアを交えたトークで会場内を沸かし、「これからも日本サッカーを盛り上げていくために頑張りたいと思う」と締めくくった。

最優秀監督賞に輝いたストイコビッチ監督

は「この賞は、監督人生の中でとても素晴らしいもの。これからも選手たちに、美しいサッカーができるように指導していきたい」と感激を表した。元 Jリーグ選手による最優秀監督賞受賞は、06年のブッフバルト(浦和)に続き2人目である。

最優秀主審賞、最優秀副審賞は、2010 FIFA ワールドカップ 南アフリカでも高い評価を得た西村雄一、相楽亨の両氏がそれぞれ受賞。Jリーグベストピッチ賞には、日産スタジアム、アウトソーシングスタジアム日本平が選ばれた。昨年から始まった最優秀育成クラブ賞では、FC東京が表彰された。

名古屋、G大阪、C大阪がACL出場権獲得 得点王は前田(磐田)、ケネディ(名古屋)

順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	名古屋グランパス	72	34	23	3	8	54	37	+17
2	ガンバ大阪	62	34	18	8	8	65	44	+21
3	セレッソ大阪	61	34	17	10	7	58	32	+26
4	鹿島アントラーズ	60	34	16	12	6	51	31	+20
5	川崎フロンターレ	54	34	15	9	10	61	47	+14
6	清水エスパルス	54	34	15	9	10	60	49	+11
7	サンフレッチェ広島	51	34	14	9	11	45	38	+7
8	横浜F・マリノス	51	34	15	6	13	43	39	+4
9	アルビレックス新潟	49	34	12	13	9	48	45	+3
10	浦和レッズ	48	34	14	6	14	48	41	+7
11	ジュビロ磐田	44	34	11	11	12	38	49	-11
12	大宮アルディージャ	42	34	11	9	14	39	45	-6
13	モンテディオ山形	42	34	11	9	14	29	42	-13
14	ベガルタ仙台	39	34	10	9	15	40	46	-6
15	ヴィッセル神戸	38	34	9	11	14	37	45	-8
16	F C東京	36	34	8	12	14	36	41	-5
17	京都サンガF.C.	19	34	4	7	23	30	60	-30
18	湘南ベルマーレ	16	34	3	7	24	31	82	-51

得点ランキング上位

順位	選手名	所属	得点数	順位	選手名	所属	得点数
1	前田 遼一	磐田	17	8	藤本 淳吾	清水	13
1	ケネディ	名古屋	17	8	岡崎 慎司	清水	13
3	エジミウソン	浦和	16	8	玉田 圭司	名古屋	13
3	マルティン・リナルデス	新潟	16	11	梁 勇基	仙台	11
5	ジュニーニョ	川崎F	14	11	マルキーニョス	鹿島	11
5	平井 将生	G大阪	14	11	曹 永哲	新潟	11
5	アドリアーノ	C大阪	14	11	李 忠成	広島	11

名古屋グランパスが第31節でJ1リーグ戦の初優勝を確定したことは、すでに前号でお伝えした。2005シーズンに1ステージ制となって以来、優勝決定は最終節となる第34節にもつれ込んでいたが、それ以前に決まったのは初めて。さらに名古屋は、2005年以来のJリーグ最多となる23勝、同じく最多タイとなる勝点72を記録してシーズンを終えた。

3節を残して優勝チームが決まったとはいえ、リーグ戦は最終節まで手に汗握る戦いが続いた。リーグ戦の3位以上となる来シーズンのAFCチャンピオンズリーグ(ACL)出場権、15位以上となるJ1残留をめぐる争いだ。いずれもドラマチックな展開が待っていた。

ACL出場権は、優勝した名古屋が獲得し、最終節では残る二つの枠を鹿島アントラーズ、ガンバ大阪、セレッソ大阪が争った。モンテディオ山形とアウェイで対戦した鹿島は、1-1の引き分けで勝点60となった。G大阪は清水エスパルスとのアウェイゲームに3-0と快勝し、勝点を62へ伸ばした。C大阪はホームでジュビロ磐田に6-2と大勝し

て、勝点を61とした。

この結果、それぞれ2、3位に浮上したG大阪、C大阪が、名古屋と共にACL出場権を手にした。今シーズン、J2リーグから昇格し、クラブ史上初のACL出場権を手にしたC大阪のレヴィー クルピ監督は「『頑張りスピリッツ』がACL(出場権獲得)につながった」と、選手たちの奮闘をたたえた。

なお、第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会の優勝チームにもACL出場権が与えられ、4位となった鹿島は名古屋がG大阪が同大会に優勝した場合には繰り上げとなり、ACL出場権を獲得することができる。

J1残留争いは、第30節で京都サンガF.C.、湘南ベルマーレの17位以下が確定した(前号既報)後、最終節ではベガルタ仙台、FC東京、ヴィッセル神戸が15位以上を目指した。仙台はホームに川崎フロンターレを迎えて1-1と引き分け、勝点を39として14位が決定。F東京はアウェイで京都に0-2と敗れ、勝点は36と変わらず。アウェイで浦和レッズに4-0と快勝した神戸が勝点を38として、



ホームの豊田スタジアムにおける最終戦後、あらためて優勝の感激をファン・サポーターと共有した名古屋



最終戦で広島に勝利した名古屋(写真左は田中マルクス闘莉王)



浦和戦で2得点を挙げる活躍を見せた神戸の吉田

柏が優勝。甲府、福岡と共にJ1昇格



© J.LEAGUE PHOTOS

G大阪は清水に快勝して2位へ浮上した



© J.LEAGUE PHOTOS

C大阪も3位の好成績。磐田の成岡と競り合う家長

F東京を抜いて15位へ順位を上げた。第25節から16位にとどまっていた神戸は、最終節で劇的にJ1残留が確定。和田昌裕監督は「最後まであきらめずに、信じて戦った成果」と、厳しかった戦いを振り返った。F東京、京都、湘南は来シーズン、J2で戦う。

得点王争いも、最後まで目を離せなかった。最終節を前に、FWのエジミウソン(浦和)、前田遼一(磐田)、ケネディ(名古屋)が16点で得点ランキングのトップ。3人のうち、前田とケネディが最終戦で1点ずつを決め、17点で得点王のタイトルを獲得した。前田はJリーグ史上初の2シーズン連続得点王、ケネディにとっては初のタイトルとなった。



© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

得点王のタイトルは前田(左)、ケネディが獲得した

柏レイソル、ヴァンフォーレ甲府、アビスパ福岡が昇格を果たし、来シーズンはJ1リーグで戦うことになった。

第33節で3位以上を確定していた柏(前号既報)は、第36節の横浜FC戦で2-0の勝利を収め、優勝を決めた。柏は第5節で首位に立った後、一度もその座を譲ることなく、わずか2敗でシーズンを終えた。最終節となった第38節では、ザスパ草津に4-0と快勝して有終の美。1年でJ1への復帰を果たし、ネルシーニョ監督は「レイソルのサッカーが熟成して、J1でやっていくための土台ができたと思う」と、来シーズンに向けての手応えを語った。

同じく第34節に3位以上を確定したヴァンフォーレ甲府が、第13節以来の2位をキープした。昨シーズンはわずか勝点1差で4位に甘

んじ、「その悔しさがばねになった」と内田一夫監督。2007シーズン以来、4年ぶりのJ1復帰となった。

3位でシーズンを終えたのはアビスパ福岡。第36節でFC岐阜に2-0と勝利し、4位のジェフユナイテッド千葉が草津に0-2と敗れたため、2試合を残して勝点差が8となり3位以上が確定した。福岡は2006シーズン以来、5年ぶりにJ1の舞台で戦うことになる。

リーグ戦の最多得点者は、20ゴールをマークした甲府のFWハーフナー マイク。横浜FCのFW三浦知良は、最終節の大分トリニータ戦でゴールを決め、自らの持つJ2リーグ戦最年長得点記録を43歳9カ月8日へ更新した。また、この試合で大分のMF東慶悟が決めた得点で、J2通算9,000ゴールとなった。

順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	柏レイソル	80	36	23	11	2	71	24	+47
2	ヴァンフォーレ甲府	70	36	19	13	4	71	40	+31
3	アビスパ福岡	69	36	21	6	9	63	34	+29
4	ジェフユナイテッド千葉	61	36	18	7	11	58	37	+21
5	東京ヴェルディ	58	36	17	7	12	47	34	+13
6	横浜FC	54	36	16	6	14	54	47	+7
7	ロアッソ熊本	54	36	14	12	10	39	43	-4
8	徳島ヴォルティス	51	36	15	6	15	51	47	+4
9	サガン鳥栖	51	36	13	12	11	42	41	+1
10	栃木SC	50	36	14	8	14	46	42	+4
11	愛媛FC	48	36	12	12	12	34	34	+0
12	ザスパ草津	48	36	14	6	16	36	48	-12
13	コンサドーレ札幌	46	36	11	13	12	37	38	-1
14	FC岐阜	45	36	13	6	17	32	45	-13
15	大分トリニータ	41	36	10	11	15	39	49	-10
16	水戸ホーリーホック	38	36	8	14	14	29	45	-16
17	ファジアーノ岡山	32	36	8	8	20	27	51	-24
18	カターレ富山	28	36	8	4	24	39	71	-32
19	ギラヴァンツ北九州	15	36	1	12	23	20	65	-45

大東和美 Jリーグチェアマン コメント

柏レイソルの皆さん、優勝おめでとうございます。心より祝福申し上げます。今シーズン2敗だけという成績は、ネルシーニョ監督の手腕と選手たちの努力のたまものでしょう。そして、わずか1年でチームを立て直したことは称賛に値する。熱烈なファン・サポーターと共に優勝の瞬間を迎えられたことは本当に良かった。来シーズン、新たな舞台でさらなる躍進を続けてくれることを期待している。

得点ランキング上位

順位	選手名	所属	得点数	順位	選手名	所属	得点数
1	ハーフナー マイク	甲府	20	8	大黒 将志	F東京	12
2	リカルド ロボ	栃木	16	9	ネット	千葉	10
2	津田 知宏	徳島	16	9	林 陵平	柏	10
4	永里 源気	福岡	15	9	工藤 壮人	柏	10
5	パウリーニョ	甲府	14	9	平本 一樹	東京V	10
6	レアンドロ ドミンゴス	柏	13	9	中町 公祐	福岡	10
6	豊田 陽平	鳥栖	13				

※2010年7月までは横浜FCに所属

© J.LEAGUE PHOTOS



大東チェアマンと共にJリーグ杯を持つ柏のキャプテン 大谷



© J.LEAGUE PHOTOS

第22節で対戦した甲府と福岡。青のユニフォームはハーフナー マイク



© J.LEAGUE PHOTOS

J2最年長得点記録を更新した三浦知



AFC CHAMPIONS LEAGUE

アジア地域のクラブチャンピオンを決める「AFCチャンピオンズリーグ(ACL)2011」のドロー(抽選会)が12月7日、マレーシアのクアラルンプールで行われ、グループステージの組み合わせが右表のように決まった。日本からは4チームが参加し、すでに今シーズンのJ1リーグ戦で1~3位となった名古屋グランパス、ガンバ大阪、セレッソ大阪が出場権を獲得。残りの一つは、2011年1月1日(土・祝)に決勝が行われる第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会の優勝チーム。名古屋、G大阪が天皇杯に優勝した場合は、J1で4位となった鹿島アントラーズが繰り上げ出場となる。

グループステージは32チームを4チームずつ8グループに分け、ホーム&アウェイによる2回戦総当たりリーグ戦を実施。各グループの上位2チーム、合計16チームがノックアウトステージに進出する。優勝チームはAFC(アジアサッカー連盟)を代表して、TOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップに出場する。

日本のチームは07年に浦和レッズ、08年にG大阪がACL優勝を飾り、勢いに乗ってFIFAクラブワールドカップでも世界第3位という好成績を取めた。09年は名古屋が準決勝に進

**大会 「AFCチャンピオンズリーグ2011」
グループステージ組み合わせが決まる**

AFCチャンピオンズリーグ2011グループステージ組み合わせ	
<西アジア>	
[グループA]	アルヒラル(サウジアラビア) アルガラファ(カタール) アルジャジーラ(UAE) セバハン(イラン)
[グループB]	エステグラル(イラン) アルナスル(サウジアラビア) パフタコール(ウズベキスタン) プレーオフ勝者(西地区)
[グループC]	アルワハダ(UAE) ビルズィ(イラン) アルイテハド(サウジアラビア) プニョドコル(ウズベキスタン)
[グループD]	アルライヤン(カタール) エミレーツ(UAE) ゴブ・アハン(イラン) アルシャバブ(サウジアラビア)
<東アジア>	
[グループE]	済州ユナイテッド(韓国) メルボルン・ビクトリー(オーストラリア) ガンバ大阪 (日本) 天津泰達(中国)
[グループF]	杭州绿城(中国) FCソウル(韓国) プレーオフ勝者(東地区) 名古屋グランパス (日本)
[グループG]	セレッソ大阪 (日本) 山東魯能(中国) 全北現代モータース(韓国) アレマ・インドネシア(インドネシア)
[グループH]	シドニーFC(オーストラリア) 第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝チーム (日本) 上海申花(中国) 水原三星ブルーウィングス(韓国)

※下記チームからプレーオフで東西各1チームがACL2011本大会に進出
【東地区】スリウィジャヤ(インドネシア)、ムアントン・ユナイテッド(タイ)、アルアイン(UAE)
【西地区】アルサッド(カタール)、アルイテハド(シリア)、デンボSC(インド)
※名古屋グランパスまたはガンバ大阪が天皇杯に優勝した場合は、2010 J1 第4位の鹿島アントラーズが出場権を獲得する。



浦和は2007年に日本のチームとしてACL初優勝



2008年に日本勢の2連覇を達成したG大阪

出。10年は鹿島とG大阪がノックアウトステージに進出したが、共にラウンド16で敗退した。次のFIFAクラブワールドカップは日本で開催

される予定となっているだけに、日本勢にはぜひ3年ぶりにアジアの王座を奪還し、世界のの舞台への挑戦権をつかむことが期待される。

審判 J1で最も多くの試合の主審を務めた岡田正義氏が引退

Jリーグでレフェリーやアシスタントレフェリーの経験がある5名のサッカー1級審判員が、今シーズン限りで引退することになった。五十川和也(フットサル審判員は今後も継続)、江角直樹、岡田正義、奥谷彰男、北村央春の5氏。

12月8日にはJFAハウスにおいて岡田正義氏が記者ブリーフィングを行い、「悔いはない」と33年に及ぶ審判員としてのキャリアを振り返った。19歳のときに審判の活動を始めた岡田氏は、1986年11月に1級登録。93年には国際審判員(主審)と

なり、1998 FIFAワールドカップ フランスではイングランドvsチュニジアの主審を務めた。

国内では、2002年にスペシャルレフェリー(現在はプロフェッショナルレフェリー)となり、Jリーグなどで活躍。2010シーズンのJ1リーグ戦第34節、横浜F・マリノスvs大宮アルディージャが最後の試合となり、J1の主審として歴代最多となる336試合のジャッジを行った。1997、2002、07年にはJリーグの優秀主審賞を受賞した。今後は後進の指導などに、これまでの経験を生かしていくという。



J1最終節でタイムアップのホイッスルを吹く

2011 Jリーグ公式試合球として「SPEEDCELL(スピードセル)」を使用

Jリーグは、2011 Jリーグ公式試合球として、Jリーグエキップメントサプライヤーである株式会社モルテン(東京都墨田区 民秋 清史代表取締役社長)の提供を受け、アディダス社の「SPEEDCELL(スピードセル)」を使用することとなった。

「スピードセル」は、2010 FIFAワールドカップ 南アフリカを盛り上げた「JABULANI(ジャブラニ)®」のテクノロジーを踏襲し、さらに

改良。ダイナミックでスピード感あふれる現代サッカーの魅力を表現すべく、「タービン」を模したデザインと、鮮やかな水色「フレッシュブラッシュ」カラーを採用している。また、わずか8枚の立体パネルを熱接合する「サーマルボンディング」技術により、限りなく真球に近い究極の球体を実現した。これによりスイートスポットが拡大し、コントロール性も向上。このほか、グリップ性を向上させる表面加工「マイク

ロテクスチャー」、安定した飛行軌道をもたらす「エアログループ」など、プレーヤーのパフォーマンスをサポートし、現代サッカーの魅力を引き出すテクノロジーが搭載されている。

さらにテクノロジーが進化した「SPEEDCELL」



ガイナレ鳥取のJリーグ入会が決定

Jリーグは11月29日に開催した臨時理事会において、2011シーズンからのJ2入会を申請していた準加盟クラブのガイナレ鳥取、松本山雅FCについて審議し、ガイナレ鳥取の入会を承認した。ガイナレ鳥取の概要は、右記のとおり。なお、塚野真樹代表取締役は1995～97年にヴィッセル神戸に所属しており、97年のJ1リーグ戦で4試合に出場、1得点。元Jリーグ選手がJクラブ社長となるのは初めて。

ガイナレ鳥取	
法人名	株式会社 SC鳥取 代表取締役 塚野 真樹 設立：2006年12月28日
所在地	鳥取県米子市久米町253-1
所属リーグ	JFL(2001年より)※第12回日本フットボールリーグ(2010)優勝
ホームタウン	鳥取県鳥取市、米子市、倉吉市、境港市を中心とする全県
ホームスタジアム	とりぎんバードスタジアム(鳥取市営サッカー場バードスタジアム)

2010 Jリーグ アンフェアなプレーに対する反則金

Jリーグは毎シーズン、アンフェアなプレーによる反則ポイントが多いクラブに対し、制裁措置として反則金を科している。今シーズンは、下記のJ1・1クラブ(2009シーズンは1クラブ)、J2・8クラブ(2009シーズンは5クラブ)がその対象となった。これは、Jリーグ規約第11章『制裁』第163条〔アンフェアなプレーに対する反則金〕および第164条〔反則ポイントの計算方法〕に基づく措置となる。

J1											
反則ポイントの年間合計数が102ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下のとおり反則金を科すものとする。											
103ポイント以上112ポイント以下	40万円	133ポイント以上142ポイント以下	100万円	163ポイント以上172ポイント以下	250万円						
113ポイント以上122ポイント以下	60万円	143ポイント以上152ポイント以下	150万円	173ポイント以上	300万円						
123ポイント以上132ポイント以下	80万円	153ポイント以上162ポイント以下	200万円								
順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告退場なしの試合数	1試合平均ポイント	
1	サンフレッチェ広島	27	¥0	34	41	1	0	3	8	0.79	
2	モンテディオ山形	28	¥0	34	40	0	0	5	9	0.82	
3	横浜 F・マリノス	29	¥0	34	44	0	0	5	10	0.85	
4	ベガルタ仙台	36	¥0	34	42	0	1	4	7	1.06	
5	ガンバ大阪	38	¥0	34	41	0	1	8	10	1.12	
6	アルビレックス新潟	45	¥0	34	48	0	1	7	9	1.32	
* 7	浦和レッズ	55	¥0	34	46	0	2	9	8	1.62	
8	ジュビロ磐田	59	¥0	34	55	1	0	7	6	1.74	
9	F C東京	63	¥0	34	54	3	0	9	7	1.85	
* 10	鹿島アントラーズ	64	¥0	34	54	1	2	9	8	1.88	
11	湘南ベルマーレ	77	¥0	34	56	0	2	12	7	2.26	
12	清水エスパルス	81	¥0	34	55	2	2	13	7	2.38	
13	名古屋グランパス	88	¥0	34	61	3	1	10	3	2.59	
* 13	セレッソ大阪	88	¥0	34	57	1	3	12	5	2.59	
15	川崎フロンターレ	93	¥0	34	65	1	0	14	5	2.74	
* 16	京都サンガF.C.	98	¥0	34	67	1	3	11	4	2.88	
* 17	大宮アルディージャ	100	¥0	34	64	3	4	15	8	2.94	
18	ヴィッセル神戸	149	¥1,500,000	34	76	7	5	19	2	4.38	
合計			¥1,500,000								(平均) 1.99

*印のクラブのポイントには、次の停止試合数が含まれる。・退席および退席に伴うベンチ入り停止試合数 ・最終節の退場処分により未消化の停止試合数

J2											
反則ポイントの年間合計数が108ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下のとおり反則金を科すものとする。											
109ポイント以上118ポイント以下	40万円	129ポイント以上138ポイント以下	80万円	149ポイント以上	150万円						
119ポイント以上128ポイント以下	60万円	139ポイント以上148ポイント以下	100万円								
順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告退場なしの試合数	1試合平均ポイント	
1	ジェフユナイテッド千葉	74	¥0	36	66	2	0	10	8	2.06	
2	徳島ヴォルティス	78	¥0	36	68	1	0	7	4	2.17	
3	ファジアーノ岡山	86	¥0	36	73	1	1	9	6	2.39	
4	横浜F C	89	¥0	36	71	0	0	11	5	2.47	
5	カターレ富山	90	¥0	36	59	4	2	13	6	2.50	
* 6	ザスパ草津	93	¥0	36	62	1	3	12	5	2.58	
7	コンサドーレ札幌	101	¥0	36	64	4	1	14	4	2.81	
8	F C岐阜	103	¥0	36	67	3	1	14	4	2.86	
9	大分トリニータ	105	¥0	36	70	2	1	13	3	2.92	
* 10	水戸ホーリーホック	106	¥0	36	78	4	2	12	6	2.94	
* 11	東京ヴェルディ	107	¥0	36	70	1	3	14	5	2.97	
12	ヴァンフォーレ甲府	111	¥400,000	36	73	2	0	18	6	3.08	
13	ロアッソ熊本	114	¥400,000	36	72	3	1	15	3	3.17	
14	アビスパ福岡	115	¥400,000	36	76	3	0	14	2	3.19	
* 15	愛媛F C	119	¥600,000	36	68	3	3	15	2	3.31	
* 16	柏レイソル	121	¥600,000	36	67	3	5	17	5	3.36	
* 17	ギラヴァンツ北九州	125	¥600,000	36	77	0	3	15	2	3.47	
* 18	栃木S C	128	¥600,000	36	76	4	2	17	3	3.56	
* 19	サガン鳥栖	139	¥1,000,000	36	79	3	4	20	5	3.86	
合計			¥4,600,000								(平均) 2.93

*印のクラブのポイントには、次の停止試合数が含まれる。・退席および退席に伴うベンチ入り停止試合数 ・最終節の退場処分により未消化の停止試合数

<反則ポイントの計算方法> (反則ポイント)=[(警告)-(警告2回による退場)×2]×1ポイント+(警告2回による退場)×3ポイント+(退場)×3ポイント+(停止試合数)×3ポイント-(警告および退場(退席を含む)がなかった試合数)×3ポイント

Jクラブと歩む「地域」「ひと」

9

浦和レッズ



地域 みんなで育成にかかわる。 クラブと共に歩む姿勢を持って

三世代そろうサッカースクール

12月の寒空の下、子どもたちの歓声がこだまする。さいたま市桜区の「レッズランド」で行われた「浦和レッズハートフルクラブ」の親子サッカースクール。子どもたちが白い息を吐きながら跳び回り、親子で一緒にサッカーボールを追い掛ける。

ハートフルクラブは浦和レッズと地域の人々が触れ合い、コミュニケーションの場を広めていく活動。サッカースクールのほか幼稚園や保育園、小学校などを巡回し、サッカーを通じて心を育むことを目的としている。これまで7年間で22万人を超える人々が参加。浦和レッズを代表する地域貢献活動で、Jリーグの中では特出的な活動でもある。

サッカースクールではコーチ役の選手OBらに加わり、中村豊彦さん(71)が優しいまなざしで子どもたちの姿を見詰める。

埼玉県シニアサッカー連盟に所属する中村さんは、ボランティアのアシスタントコーチとして活動に参加。球拾いなどの裏方に徹しながら、子どもたちとコミュニケーションを図る。「子どもたちと一緒に遊んで、というより遊ばれている感じがですね。孫と同じくらいの年齢で、みんなかわいいですよ」と笑う。



中村豊彦氏

核家族化が進み、三世代がそろうような機会も少なくなった。ハートフルクラブは、さまざまな世代と触れ合える場を提供する役割も担っているのだ。学校だけが教育の場ではない。地域の人みんなで子どもを育てる本来の姿がここにはある。

それは浦和レッズ独特の取り組みでもあり、中村さんは「サッカースクールに家庭的な雰囲気があるのが一番の魅力」と話し、将来の夢を語ってくれた。「ハートフルクラブのスクールから日本を代表する選手がいっぱい出て、ワールドカップで活躍することです」。その表情には、おじいちゃんが孫を見る優しさがにじみ出ている。そこにはサッカーを超えた地域の絆があるのだ。

赤く染まるスタジアム

浦和レッズの試合がある日、街は赤く染まる。家々のベランダにはクラブフラッグが掲げられ、埼玉スタジアム2002へとつながる道々は、ユニフォームのレプリカを身にまとったサポーターで埋め尽くされる。そしてスタジアムも。

ナイトゲームでは、スタジアムを赤色でライトアップ。2008シーズンから始まった。同スタジアム事業推進本部企画運営課の船越良課長(45)は「スタジアムの誇りがレッズ。レッズが使っているスタジ



船越良氏



浦和レッズのナイトゲームが開催される際にはクラブカラーでライトアップされる ©埼玉スタジアム2002

アムだから価値が高い。もっともっと盛り上げたい」と話し、クラブを全面的にバックアップする。

埼玉スタジアム2002はサッカー専用スタジアムとして収容数6万3700人を誇り、日本代表戦もしばしば実施される。

浦和レッズは、2010シーズンのリーグ戦ホームゲームで67万8994人の入場者を集め、J1クラブのトップ。2位のアルビレックス新潟を16万人、上回った。船越課長も「5万人の入場者を呼ぶことのできるプロスポーツはそう多くない。こんなにリーグを盛り上げるクラブはレッズ以外にないのでは」と話す。

埼玉スタジアム2002に懸かる期待も大きい。どのスタジアムも試合当日にはゲームを盛り上げようと装飾に力を入れるが、陸上競技などほかの競技にも使用されるスタジアムでは、難しいこともある。でも埼玉スタジアム2002は違う。埼玉スタジアム2002といえばレッズ。レッズといえば埼玉スタジアム2002。それくらいの印象が染み付いている。

船越課長は「われわれは(浦和レッズと同じ)当事者意識をもっと持ってもいいのではないかと思っている。おこがましいかもしれないが、サポーターとして、浦和レッズと一緒にやっているんだという気持ちを、わたしたちも持ちたい」と力を込めた。

浦和レッズの理念は、街を赤く染めることだけでなく、地元の人々の心を赤くすることだ。自発的にレッズを育てようとしてくれる人を増やすこと。一貫した地道な活動が、今の浦和レッズを形づくっている。



親子サッカースクールをボランティアとして支える中村さん(後方中央)

©埼玉新聞社

(埼玉新聞社 福田 龍之介)

Jリーグニュースでは146号(2008年3月28日発行)から165号(09年10月30日発行)にかけて「スポーツでつくる幸せな国『Jリーグ百年構想』へのアプローチ」と題し、Jクラブによる地域に根差すためのさまざまな取り組みを連載した。では、こうしたJクラブの存在、活動に刺激を受けたり、触れるなどして、地域とそこに暮らす人々とはどのように変わったのか。新たなシリーズでは、Jクラブと手を携えながら共に歩む人々や、その活動を紹介。第5回となる今回は、浦和レッズ、サガン鳥栖にスポットを当てた。



10

サガン鳥栖



クラブと地域住民の近い距離感。支えてくれる人たちの思いがパワーに



すっかり打ち解けて交流も深まった社員食堂の職員と鳥栖の選手たち

©佐賀新聞社

社員食堂を開放

佐賀県鳥栖市轟木町の住宅メーカー・九州セキスイハイム工業。約200人が座れる広々とした社員食堂に、午前の練習を終えたサガン鳥栖の選手、スタッフたちが続々と集まってくる。昼食をとって英気を養い、会話も弾む選手たち。10年以上続くチームの日常風景だ。

1997年秋、同社から車で5分もかからないほどの距離に鳥栖市陸上競技場が完成。クラブが練習拠点の一つとして使用するようになった。当時、クラブは「サガン鳥栖」として再出発したばかりで、経営の厳しさは深刻だった。「独身選手たちはコンビニ弁当や外食ばかりで、食事に苦労していると聞いた。力になりたかった」と同社企画管理部の重松彰彦さん。前身のPJMフューチャーズ時代からのサポーターだったという重松さんが会社と掛け合い、「地域貢献」の一環として社員食堂を開放するようになった。

正午からの30分間は社員が使用、その前後が選手の時間帯だ。「多くの選手と一緒に食べられるので、コミュニケーションの場としても役立っている」と鳥栖で6年目の飯尾和也選手。重松さんは「みんなあいさつしてくれるし、決まりも守ってくれる。互いに気を使わずにいられることが、長く続いている秘訣なのかも」と語る。

同社が料金の一部を負担しているため、選手の食事代は格安。栄養バランスもとれており、肝心の味の方も「いつもおいしい」と好評だ。社員食堂なので選手中心のメニューという

わけにはいかないが、「なるべく野菜を多くとれるようにしています。午後も練習があるときは、揚げ物は避けるようにしています」と栄養士の島上香織さん。激しいトレーニングに励む選手たちにとっては、ありがたい気配りだ。

クラブが食堂を利用するようになった当時から働く石田昭子さんと村山通枝さんにとって、選手たちは子どもや孫のような存在。「食べに来て、おいしいと言ってくれるだけでエネルギーをもらえる」と目を細める。初めは緊張してうまく話せなかったというが、スタジアムにも足を運ぶようになり、すっかり打ち解けた。「いまでは佐賀弁丸出しで自分をさらけ出していますよ」と笑顔。ごはんにカレーをかけてあげたり、大事な試合の前にはステーキを用意したりと、選手たちへの「特別サービス」もあるという。

選手も「おばちゃん」と気軽に声をかけ、日ごろの感謝を込めて食事会に招待するなど交流を大切にしている。「毎年オフに別れがあるのはつらいけれど、チームを離れた選手たちが、家族を連れてまた来てくれるときが何よりうれしい」と村山さん。選手たちの「鳥栖の母、でいられることが最大の喜びだ。

愛されるための礎

クラブと共に歩む人はほかにもいる。鳥栖市の大竹義治さんもその一人。「地元に来た縁で」と応援するうちに、のめり込んでいったという。99年のJ2入会時から数年間は、ホームゲー

ムの平均入場者数が3,000人台と苦戦していた。そのため、仲間と共にポスターを手作りし、商店街を回って試合を告知。クラブを地元根付かせようと、地道な活動を行ってきた。



大竹義治氏

財政面からもクラブを支えようと、2007年には後援会の立ち上げに参加。現在は事務局員として、仕事が終わった後の時間や土、日曜日にデータ管理など裏方業務をこなす。ボランティア組織「アシストクラブ」の一員としても活動。ホームゲームでは案内係など会場運営にも携わるようになった。「生でゆっくり試合を見られるのはアウェイだけになった」と新たな悩みもあるが、「最近慣れました」。鳥栖市の将来を構想する審議会にも加わり、「クラブを生かしたまちづくり」を提言するなど、そのエネルギーは計り知れない。

鳥栖は1999年のJ2発足時から入会しているクラブの中で唯一、J1経験がない。昇格は全関係者の悲願だが、「最終目標ではない」と大竹さん。20年、30年後も地元愛されるための礎をつくるのが大切と強調する。過去にあったクラブ存続の危機を知るからこそ言葉だ。「試合を観戦したり、後援会に入ったりと、支援の形はさまざま。誰もが自分にできることに参加して、〴〵がチームを盛り上げていけたら」と話す。

鳥栖市は人口7万人にも満たない小さなホームタウン。大都市のような支援が難しい一方で、クラブと地域住民との距離感の近さは大きな魅力でもある。支えてくれる人たちの思いをじかに感じられることは、選手にとっても何よりのパワーの源だ。

(佐賀新聞社 古川 浩司)



試合開催日に来場者の案内を行うボランティア組織のアシストクラブ ©サガン鳥栖

2010 Jリーグ チェアマン総括

(社)日本プロサッカーリーグ チェアマン 大東 和美



©J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグは、1993年スタート時の10クラブから来年には38クラブにまで拡大し、今後40クラブまでその数を増やそうとしている。Jリーグが設立された91年から19年の時を経て、全国のJクラブやリーグ、クラブにかかわる全ての方々の努力により、有形無形の価値が創出され、世界でも有数のプロサッカーリーグとして成長してきた。

一方で、クラブの経営問題、選手の育成、スタジアム整備などさまざまな課題が表面化しつつあるのも事実である。このような問題は、それぞれが突発的な事象として起こったわけではなく、Jリーグを取り巻く外的環境の急速な変化に対して、制度改善のスピードがやや遅れたことにある。

本年7月に第4代チェアマンに就任した私の最大のミッションは、現在Jリーグに存在する全ての課題を洗い出し、それを体系化し、大胆かつスピード感を持ってその解決にあたることに他ならないと考えている。

リーグ戦、リーグカップ戦

J1リーグ戦では、名古屋グランパスがリーグ戦初優勝を成し遂げた。ストイコビッチ監督のもと、豊富なタレントに加え、厳しい試合も勝ち抜く勝者のメンタリティーを兼ね備えることができたのは、クラブがリーグ戦タイトルを奪取するという一つの目標に向かって一丸となった成果だと考える。1ステージ制になって初めて最終節を待たずに優勝を果たしたことは、今シーズンのグランパスが他クラブに比べひとつ抜き出た存在であったことを証明している。

また、今シーズンJ1に復帰したセレッソ大阪が、攻撃的な布陣で勝利を重ね、最終節でAFCチャンピオンズリーグ(ACL)出場圏内の3位に入ったことは、J2の戦いの中でも攻撃的な姿勢でチームづくりをしてきた成果であり、称賛に値する。

ギラヴァンツ北九州を加え、19クラブで行われたJ2リーグ戦では、柏レイソルが昨シーズンのJ2降格から見事1シーズンでチームを立て直し、他を圧倒する戦いぶりでJ2を制した。アカデミー組織出身選手が数多くトップチームに所属し、彼らがチームの中心となって昇格の立役者になったことはクラブの方向性が正しかったことを示している。

Jリーグヤマザキナビスコカップでは、ジュビロ磐田が12年ぶりの栄冠に輝いた。リーグ戦史

上初の2年連続得点王である前田遼一選手を中心に、スピード感あふれる攻撃が際立っていた。延長戦にわたるサンフレッチェ広島との激闘は、ヤマザキナビスコカップ史上に残る名勝負というにふさわしい一戦であった。

2010 FIFAワールドカップ 南アフリカ

2010 FIFAワールドカップ 南アフリカにおいて、日本代表はベスト16という好成績を残した。代表選手の全員がJクラブ所属または出身者であり、彼らの活躍が日本のファン・サポーターに感動を与えてくれたと同時に、Jクラブに所属するすべての選手たちにも、より世界を意識するきっかけを与えてくれたことに感謝したい。

そして、日本代表がさらなる高みを目指していくためには、Jリーグのレベルアップが不可欠であることは言うまでもない。漠然とではなく、名実ともに「世界に伍する」リーグになるために、よりハイレベルなリーグ戦をつくり上げていきたい。

ACL

出場した4クラブがアジアのクラブタイトル奪還を目指し奮闘したものの、残念ながら鹿島アントラーズ、ガンバ大阪がラウンド16に進出したにとどまり、日本のクラブがACLで勝ち抜くための課題と、アジアのクラブの競技レベルがここ数年で急速に上がっている現実を痛感させられるシーズンとなった。

来シーズンは、必ず日本にタイトルを取り戻すことができるよう、リーグとしてもバックアップしていきたい。

「イレブンミリオン」プロジェクト

2007シーズンから4年間にわたり「イレブンミリオン」プロジェクトを実施した。昨シーズンまで3年連続で過去最多となる年間総入場者数を記録したが、最終年となる今シーズンは864万5762人に終わり、残念ながら目標としてきた年間1,100万人を達成することはできなかった。いくつかの外的要因はあるものの、目標達成ができなかったことはわれわれの努力が足りなかったと反省すべきである。

一方、数値目標としての「イレブンミリオン」は未達成となったが、全クラブ共通の目標を持つことにより、試合日を中心とした魅力あるスタジアムづくり、お客様を迎えるホスピタリティー

の向上、そして各クラブが取り組むホームタウン活動の充実などは、4年間の「イレブンミリオン」プロジェクトが残した成果といえるであろう。

プロジェクトは今シーズンをもって終了したが、一人でも多くのお客様を迎えるべく「魅力あるスタジアム」、「ホームタウンで愛されるクラブ」の実現に向け、来シーズンも38クラブと共に努力していきたい。

相手をたたえる

Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝前日のインタビューでサンフレッチェ広島のペトロヴィッチ監督は「たとえ決勝で敗れたとしても、準優勝したことを祝いたい」と話した。決勝当日、惜しくも延長の末敗れた後も、サンフレッチェの選手たちは表彰式において勝者・ジュビロ磐田をたたえる姿勢を崩さなかった。

J1リーグ戦、名古屋グランパスが優勝を決めたゲームで、試合終了後相手チームの湘南ベルマーレのファン・サポーターはグランパスの優勝をたたえ、惜みない称賛の拍手を送った。それに対してグランパスの監督・選手たちは感謝の意を示し、ベルマーレ側のゴール裏にあいさつに向かうという感動的なシーンがあった。

選手もファン・サポーターも対戦相手への敬意を持って試合に臨み、ひとたび試合が終われば相手の戦いぶりに称賛を惜しまない。まさにスポーツマンシップの原点を見る場面に数多く出会ったことに、Jリーグチェアマンとして心から喜びを感じている。

理念を見つめ直す

今シーズン、クラブ経営や公式入場者数の発表などJリーグの根幹にかかわる問題がさまざまな場面で表面化した。これは、「なぜJリーグは地域に密着した活動を原点としているか」、「なぜJリーグは公式入場者数を実数で公表しているのか」など、Jリーグの理念に対する意識が欠如していたために起きたことと言わざるをえない。

われわれは今一度原点に立ち返り、先人たちが築き上げ、実践してきたJリーグの理念に基づいたリーグ・クラブ運営に取り組むことが不可欠である。再度襟を直し、「Jリーグ百年構想」を堂々と語る組織運営に取り組んでいきたい。



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。